

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和 4年 2月 3日

事業所名：ブルーム

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> 十分に確保している。 利用児に応じて、パーティションで仕切りながら、子どもたちが落ち着いて過ごすことができるように工夫している。 	(ご意見なし)	十分確保できている 活動に応じてパーティションを使用して部屋を区切ったり、一つの空間として広く使ったり、死角がないよう指導員の目が行き届くように工夫して確保していく
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> 適切な配置をしている。 行事などの際は普段よりも多めに職員を配置し、取り組んでいる。 	(ご意見なし)	適切な配置をしている 活動に応じて職員数を増員している
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 利用児に合わせて、視覚的に情報伝達できるよう絵カードや写真を利用してわかりやすく掲示している。 完全なバリアフリーではありませんが、活動をする部屋が1フロアの為、ほぼ視覚なく常に見守りができ、安全を確保し活動が行えている。 	(ご意見なし)	利用者のニーズに対応していく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の掃除をしっかりと行っている。 室内へ入る時や昼食、おやつ前には必ず手を洗い、消毒をしている 玩具の消毒も定期的に行っている。 	(ご意見なし)	日々の掃除や玩具類の消毒、換気、パーティションなど環境整備を心がけていく 利用児に合わせて部屋の机などの配置や遊ぶ場所も変更していく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、朝礼を行って、活動の流れを確認するようにしている。 個別に支援を必要とする子どもについては、カンファレンスを行い支援についてスタッフ間で統一ようにしている。 日々の反省もしっかり行い、終礼を持つことで他のクラスのこと全職員が把握できるようにしている 日々の打ち合わせや反省をしっかりと行っていく。 	/	PDCAサイクルを心がけ、打ち合わせや反省をする時間をしっかりと持ち、次の支援に繋がるようにする
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所の職員と意見交換をし、業務改善を検討していく。 	/	継続していく
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 外部での研修の機会がある時は、スタッフが自主的に参加するようにしている。 また外部の研修に出たスタッフは研修報告で他のスタッフに報告する機会を持っている。 休園日を設けて 園内研修を行ったり、外部での研修には参加するようにしている。 	/	継続していく
適切な	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 利用児や保護者の要望、ニーズを分析し計画を作成している。 利用児の課題や支援方法について検討する会議の場を設けている。 職員間でアセスメントを行い計画書を作成している。 	(ご意見なし)	アセスメントシートを使用して、職員で適切にアセスメントを行い、カンファレンスで課題やニーズを分析していく 面談や送迎の際にニーズを把握したり、行動観察を記録し、支援計画を作成している。必要に応じて利用者の医療機関で行った発達検査結果をお持ち頂き発達状況を把握していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
支援の提供	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・カンファレンスを行い、計画を立てている。 ・子ども一人一人の発達の特性をつかむため、職員間でアセスメントを行って計画に取り入れるようにしている。		子ども一人ひとりに合わせて、宿題や机上学習を行ったり、自由時間にニーズに合わせた個別活動やコミュニケーションを中心に集団活動を取り入れた計画を作成していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・スモールステップで子どもたちが実際に達成できる目標を立てるように心掛けている。	(ご意見なし)	スモールステップを大事にし、保護者へ分かりやすいように記載を心がけていく
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・打合せ時に個別支援計画を確認し、職員間で共有している。	(ご意見なし)	打ち合わせの際に職員間で内容を共有し、計画に沿った支援が出来るように取り組んでいく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	・各自が考えた活動内容に対して、意見を出し合っている。	(ご意見なし)	打ち合わせやミーティング等ではスタッフ一人ひとりが自由に意見を言い、支援の仕方や活動の進め方等共通の目標を持って取り組むようにする
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・休暇に合わせて活動内容を変えていく。		土曜日や長期休暇など時間に余裕がある時にしかできない園外活動などを計画していく 子どもの年齢や性格に合わせて活動内容を変えている
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・同じようなプログラムにならないように、スタッフ間でプログラムについて話をしたり、楽しい活動を本やインターネットで調べたりしながらプログラムを行うようにしている。 ・プログラムがマンネリ化しないように工夫していく。		利用者が用紙にやりたいことを書いて投稿する青空boxを活用し、利用者が出した案を元に話し合いをして、主体的な活動ができるように創意工夫している
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・職員間で朝礼を行い、朝の打ち合わせをしている打ち合わせをしっかりと行い、支援内容や役割分担の確認を毎日行っている。		計画案を元に打ち合わせをしっかりと行い、支援内容や役割分担の確認を徹底していく
9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・各クラスで反省を行い、職員間で共有できるように終礼でクラスの反省や様子を伝えあっている。 ・反省会を十分に行い、同じ反省が繰り返されないようにしている。		支援終了後、職員共有ノートを使用し、同じ反省を繰り返さないようにスタッフ間で話し合い、共有していく	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・日々の日誌を記入して、次の日に活かせるように徹底している記録をしっかりと書くようにしている。これを継続していく。		継続していく
	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・半年ごとに個別支援計画書を作成、見直しを行い、その際に保護者との面談を持ち、現状の報告をして保護者のニーズを再確認している。 ・定期的に会議を持ち、計画書の見直しをし適切な支援の提供をしていく。		概ね6か月に一度、モニタリング・支援計画の見直しを確実にやっていく
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	・担任やサービス管理責任者が積極的に担当者会議に参加するようにして、利用児の様子を見ながら、必要に応じて会議を持つように提案している。 ・積極的に担当者会議に参加して必要に応じて会議を持つようにしている。		サービス担当者会議には積極的に参加していく。必要な場合、相談支援事業所に会議の提案をする
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当者なし 利用児なし		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・該当者なし 利用児なし		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 ・送迎の際には子どもの様子を尋ねるようにしたり、連携会議を持つようにして支援内容を共有している。		保護者を通して情報を得ている。必要に応じて連携会議を持つようにしていく
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	・小学校との話し合いも行うようにしている。		機会があれば情報提供していく
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・研修には、積極的に参加するように勧めている。		積極的に研修へ参加するようにしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・地域との交流は、現在行っていないが今後考えていく。 (ご意見なし)	現時点では交流の機会の提供はできていないが、今後、地域の交流の場が持てるように働きかけていく
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・地域の方を招待できていない。 (ご意見なし)	地域の交流が持てるような工夫をしていきたい
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時にしっかりと説明している。 (ご意見なし)	契約時に丁寧な説明を心がけている。また随時不明な点は職員が説明するようにしている 支援の内容については、支援計画の説明でお知らせしている
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・面談を持って、保護者と話をしている。 (ご意見なし)	具体的に分かるように伝えることを心がけていく
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施・子育てについての座談会などの実施をしている。 (ご意見なし)	定期的に保護者の座談会を設けている。引き続き、質の向上を目指していく
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・日々、連絡帳や送迎時に密に話をするようにしている。 (ご意見なし)	日々の連絡帳や送迎時に話すようにし、気になることがあれば面談を取るなど、出来るだけ早い対応を心がけ共通理解の徹底する
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・保護者から相談があった時には、現場のスタッフやサービス管理責任者が検討して相談・助言等の対応をしている。 (ご意見なし)	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、電話や対面の面談を設けるなど保護者に寄り添った対応をしていく
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・子育てについての座談会(おひさま会、ママ会)の日程は、保護者の参加しやすい日程となるよう調整していく。 ・新型コロナウイルスの影響で実施できない状態、早くコロナが治まってほしいです。	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、保護者が参加しやすいように日程を調整したり、参加できない人はzoomを使ったりして、出来るだけ保護者同士が交流できるように定期的に集まれる場を設ける
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・保護者の思いを十分に聞くようにして、その都度対応している。 ・苦情を言うことがない。	苦情が上がった場合、子どもや保護者の思いをしっかりと聞き、迅速かつ速やかに改善するようしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・写真や絵カードを活用しながら、分かりやすく伝えるようにしている。	(ご意見なし)	わかりやすい伝達方法を工夫したり、伝わる方法を利用者や保護者に合わせるようにしていく
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・ホームページの更新や保護者へのお便りで知らせている。	(ご意見なし)	お便りの発行、ホームページやブログの更新を定期的に行う
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	・児童のことに関しては、事業所内で話をするようにし、書類を破棄するときも個人情報の書いているものは、必ずシュレッダーにかけて捨てるようにしている。	(ご意見なし)	同意をいただき、適切に取り扱っていく
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・各種マニュアルを事業所に設置し、職員は目を通している。	(ご意見なし)	個別支援計画への掲載、面談時に保護者へ周知していく
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・定期的に避難訓練を行い、AEDの研修にも積極的に参加していく。	(ご意見なし)	定期的に避難訓練を行っていく
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・子どもや保護者の小さな変化を見逃さないように心掛けている。		研修への参加は引き続き行い、子ども達の小さな変化を見逃さないようにしていく
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体拘束は、行っていない。 離席のある子どもに座るよう促す時の対応では、保護者に説明して理解を得ている。 ・身体拘束はサービス計画への記載は行っていない。 離席のある子どもを座るよう促すときには、保護者への説明をするようにしている。		対応策を計画に記載するにあたり、保護者としてしっかりと話をし確認していく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・保護者からの聞き取りと調査票への記載をしている。		保護者からの聞き取りと調査票への記載で対応を決めていく
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・職員間での共有をして、同じことが起こらないように工夫している。		職員間で共有し、同じことが起こらないように徹底していく